

法人名	公益財団法人愛媛県動物園協会
-----	----------------

所管部(局)課	土木部 都市整備課
---------	-----------

1 法人の概要

令和 4 年 3 月 31 日 現在

代表者名	理事長 佐伯 要	ホームページURL	https://www.tobezoo.com/		
所在地	愛媛県伊予郡砥部町上原町240番地	電話番号	089-962-6000		
基本金・資本金等	20,000 千円	設立年月日 (移行年月日)	昭和62 年 4 月 1 日 (平成22 年 6 月 1 日)		
主な出資者	出資者名		出資額(千円)	出資比率(%)	
	愛媛県 (利益繰入)		10,000	50.0	
			10,000	50.0	
設立目的	愛媛県立とべ動物園の有効利用の推進に協力するとともに、動物の知識及び動物愛護思想の普及を図り、もって県民の教育文化の向上に寄与することを目的とする。				
設立の経緯及び経過	平成22年6月1日公益財団法人に移行				
主な事業内容	県から委託を受けて行う愛媛県立とべ動物園他の維持管理運営、動物園事業に関する援助協力、動物の知識及び愛護思想の普及事業、遊具売店他の収益事業			管理受託施設 (指定管理者施設を含む) 愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場	

2 組織の状況

(単位:人)

区分	年度	平成30年度					令和元年度					令和2年度					令和3年度					増減	左記の増減理由
		合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員	合計	うちプロパー	うち(派遣)県職員	うち(兼務)県職員	うちOB県職員		
評議員		3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
常勤		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤		3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
理事等		8	1	0	0	1	8	1	0	0	1	9	1	0	0	1	9	1	0	0	1	0	
常勤		2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	0	
非常勤		6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	
職員		65	60	3	0	2	66	61	3	0	2	66	61	3	0	2	68	63	3	0	2	2	
正規職員		42	37	3	0	2	43	38	3	0	2	42	37	3	0	2	42	37	3	0	2	0	
非正規職員		23	23	0	0	0	23	23	0	0	0	24	24	0	0	0	26	26	0	0	0	2	
常勤職員		13	13	0	0	0	13	13	0	0	0	13	13	0	0	0	14	14	0	0	0	1	
非常勤職員		10	10	0	0	0	10	10	0	0	0	11	11	0	0	0	12	12	0	0	0	1	
県関係職員の実数		6		3	1	2	6		3	1	2	6		3	1	2	6		3	1	2		
県退職後2年内雇用OB						2					2					2					2		
役員・職員の兼務等特記事項	H30,R1-3 常務理事兼事務局長(県職員OB)、理事兼園長(プロパー)																						

※役員・職員の兼務等特記事項については、プロパー、県職員の別を明記してください。

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

3 実施事業評価表

(単位:千円、%)

事業名1	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
動物園管理他に関する事業	経常費用	574,856	583,932	594,917	585,566	623,796	6.5	
	全体事業に占める割合(%)	88.75	90.15	91.85	90.41	96.31		
事業開始年度	経常収益	565,027	556,785	589,867	586,314	620,844	5.9	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合 全体事業に占める割合(%)	88.86	90.26	91.96	90.52	96.43		
成果指標	指標項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	入園者満足度(%)	95.3	92.4	93.1	87.4	92.6	5.9	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度83%、動物の展示に関する満足度95.5%、職員の勤務態度に関する満足度99.3%の平均。
							-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	動物園の維持管理を行い、来園者に満足してもらえる施設づくりを目指す。							

(単位:千円、%)

事業名2	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
鳥獣保護・調査研究事業	経常費用	515	497	508	570	569	△0.2	
	全体事業に占める割合(%)	0.08	0.08	0.08	0.09	0.09		
事業開始年度	経常収益	515	497	508	570	569	△0.2	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合 全体事業に占める割合(%)	0.08	0.08	0.08	0.09	0.09		
成果指標	指標項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
	鳥獣保護受入割合(%)	100.0	100.0	100	100	100	0.0	野生鳥獣の保護要請に対する受入割合(100%)目標
							-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)	野生傷病鳥に関して、適切な保護要請があれば受け入れを行い、治療後自然界へ戻す。							

(単位:千円、%)

事業名3		区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
協力・普及活動事業		経常費用	7,427	7,599	4,141	1,125	2,053	82.5	イベントの一部再開による広報広告費等の増加
		全体事業に占める割合(%)	1.15	1.17	0.64	0.17	0.32		
事業開始年度		経常収益	7,247	7,599	4,141	1,125	2,053	82.5	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	1.15	1.17	0.64	0.17	0.32		
成果指標		指標項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		イベント・教育事業への参加者満足度(%)	96	92	93	87	93	5.9	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。アンケート調査による、園内施設に対する満足度83%、動物の展示に関する満足度95.5%、職員の勤務態度に関する満足度99.3%の平均。
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		イベント・教育事業を行い、動物に対する興味や知識、命の大切さなどを学んでもらう。							

(単位:千円、%)

事業名4		区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
収益事業		経常費用	55,468	50,390	54,167	42,840	47,903	11.8	新たに開始した有料ガイドやエサやり体験、および売店商品の新規開発や新たな販路として東急ハンズでグッズ販売を行ったこと等による。
		全体事業に占める割合(%)	8.56	7.78	8.36	6.61	7.40		
事業開始年度		経常収益	73,540	72,694	75,094	52,701	60,983	15.7	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	8.57	7.79	8.37	6.62	7.40		
成果指標		指標項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		利益率(%)	24.6	30.7	27.9	18.7	21.4	14.6	収益事業の安定性、健全性を保つため、利益率20%以上を目指す。
								-	
事業内容 (事業の目的、期待される効果、これまでの成果等)		園内売店、遊園地、自動販売機等、来園者の利便性を向上させるため収益事業を実施。							

(単位:千円、%)

その他事業		区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
法人会計		経常費用	1,065	1,122	1,118	988	1,008	2.0	理事会会場費の減少により課税仕入額が減少したため消費税の会計調整額が減少した
		全体事業に占める割合(%)	0.16	0.17	0.17	0.15	0.16		
		経常収益	38	88	319	30	27	△10.0	
		全体事業に占める割合(%)	0.16	0.17	0.17	0.15	0.16		

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

(単位:千円、%)

4 財務状況

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (個々の項目で前年度10%前後の増減及び 当該年度特有の事情による増減があった場合に記入)
【正味財産増減計算書】	経常収益計	628,267	615,332	648,964	630,848	671,370	6.4	
	うち公益目的	554,717	542,577	571,877	578,147	610,387	5.6	
	うち基本財産運用益	29	32	40	30	20	△33.3	金利の減少によるもの
	うち公益目的	29	32	40	30	20	△33.3	金利の減少によるもの
	うち事業収益	271,123	265,638	266,601	191,322	202,321	5.7	
	うち公益目的	202,394	188,019	191,839	146,574	142,327	△2.9	
	うち受取補助金等(委託料・ 負担金含む)	352,323	343,285	373,886	431,573	459,000	6.4	
	うち公益目的	352,323	343,285	373,886	431,573	459,000	6.4	
	経常費用計	639,123	643,512	654,814	631,059	675,303	7.0	
	うち公益目的	582,618	592,028	599,567	587,260	626,419	6.7	
	うち事業費	632,083	646,953	648,386	625,104	667,931	6.9	
	うち公益目的	582,618	592,028	599,567	587,260	626,419	6.7	
	うち管理費	7,040	6,559	6,428	5,955	7,372	23.8	収益部門の売上増による消費税の増加
	うち公益目的	0	0	0	0	0	-	
当期経常増減額	-10,856	-28,181	-5,850	-211	-3,933	△1764.0		
当期経常外増減額	-1	0	0	0	0	-		
当期正味財産増減額	-10,399	-28,271	-72	-270	-4,253	△1475.2		
【貸借対照表】	資産	488,508	473,075	469,998	482,538	516,099	7.0	
	流動資産	82,777	90,889	64,997	110,670	154,646	39.7	管理委託料増額分の未収金の増加
	固定資産	405,731	382,186	405,002	371,868	361,453	△2.8	
	うち基本財産	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	0.0	
	負債	384,230	397,068	394,064	406,873	444,687	9.3	
	流動負債	56,054	76,707	57,088	68,571	115,827	68.9	未払金の増加
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	-	
	固定負債	328,176	320,361	336,975	338,302	328,860	△2.8	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	-	
	正味財産	104,278	76,007	75,935	75,665	71,412	△5.6	
	指定正味財産	14,467	14,376	20,154	20,095	19,775	△1.6	
一般正味財産	89,812	61,631	55,781	55,570	51,637	△7.1		
負債・正味財産合計	488,508	473,075	469,998	482,538	516,099	7.0		

【人件費内訳】

(単位:千円、%)

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
役員人件費		690	740	650	660	710	7.6	
職員人件費	うち事業費分	329,442	343,774	343,714	336,335	361,029	7.3	
	うち管理費分	2,377	2,403	2,438	2,810	2,846	1.3	
	小 計	331,819	346,177	346,152	339,145	363,875	7.3	
合 計		332,509	346,917	346,802	339,805	364,585	7.3	

【県の財政的関与】

(単位:千円、%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率 (前年度比)	増減理由 (前年度10%以上の増減があった場合)
負担金	0	0	0	0	0	-	
補助金	0	0	0	0	0	-	
委託料	352,323	343,285	373,886	431,573	459,000	6.4	
うち指定管理委託料	351,826	341,388	372,383	429,913	458,450	6.6	
うち再委託額	95,292	94,817	97,002	95,602	95,733	0.1	
貸付額	0	0	0	0	0	-	
県支出金計	352,323	343,285	373,886	431,573	459,000	6.4	
貸付残高(期末)	0	0	0	0	0	-	
損失補償に係る債務負担残高(期末)	0	0	0	0	0	-	

【県の財政的関与の内訳】(R3年度)

(単位:千円)

区分	名称	金額	左記の内容 <small>※それぞれの始期を(終期が決まっている場合は終期も)記載すること。単年度のみの負担金等は、その旨を記載。 ※貸付金については、貸付期間も記載すること。</small>
負担金			
補助金			
委託料	とべ動物園他指定管理料	458,450	指定管理協定に基づく愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場の維持管理運営
	野生傷病鳥獣保護事業	550	傷病鳥獣の保護 ツバメなど
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】

(単位:%)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	56.1	55.8	57.6	68.4	68.4	△0.0	県からの補助金等(補助金・負担金・委託金)÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	27.0	27.6	25.9	22.2	20.9	△1.3	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	52.0	53.9	53.0	53.8	54.0	0.1	人件費÷経常費用計×100
管理費比率	1.1	1.0	1.0	0.9	1.1	0.1	管理費÷経常費用計×100
正味財産比率(会社法人及び公社以外)	24.1	16.1	16.2	15.7	13.8	△1.8	正味財産÷(負債+正味財産)×100
流動比率	147.7	118.5	113.9	161.4	133.5	△27.9	(流動資産÷流動負債)×100
借入金依存率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	(長期借入金+短期借入金)÷資産×100
公益目的事業比率	91.2	90.6	91.6	93.1	92.8	△0.3	(公益目的事業費)÷(公益目的事業費+収益事業等の費用+管理費)×100

法人名 公益財団法人愛媛県動物園協会

5 法人の現状及び過去の評価結果

法人の現状	<p>経営の安定を図るため、とべ動物園の入園者数の確保と経費節減に積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、平成22年6月に公益財団法人に移行し、法人としての自立性の向上、組織体制の強化、公益事業の一層の推進に努めている。</p> <p>平成31年度から5年間とべ動物園の指定管理者に指定されている。</p>
県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果(平成22年度総評)	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、平成18年度からの指定管理者制度導入以後、様々な工夫した取り組みを実施した結果、とべ動物園の入園者数、入園料収入を増加させており、その取り組みは大いに評価できる。 ・開園して22年を経過している施設の維持改修については、入園者数、利用料金収入の増加を図る観点も含め、県と協議して計画的に実施していただきたい。 ・獣医の県職員派遣は、当法人の公益性や経営状況等を勘案し、将来的にはノウハウ等を継続した上で、プロパー化を進めていただきたい。
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果(平成23～25年事業総括)	<p>○21年度には、高速道路利用料金の大幅な割引制度の実施や全国的な動物園ブームの影響で、利用者数及び入園料他収入は開園当初6年間を除き最大となっていたが、割引制度終了後は、利用者及び入園料他収入が減少し、評価全期間において赤字を計上しており、収支の両面からの改善に早急に取り組んでいただきたい。</p> <p>○人口の減少、少子化、レジャーの多様化、動物園ブームの終焉、中四国地区の他園との競合、獣舎リニューアルに活用していた助成制度の廃止など、動物園を取り巻く環境が厳しさを増す中、25年度の利用者数はピーク時(21年度)の約4分の3近くまで落ち込んでおり、利用者数の確保が喫緊の課題となっている。このため、イベント開催などソフト面の充実、人気動物の繁殖や展示方法の工夫など来園者サービスの向上を図るとともに、近隣施設との連携強化を進めるなど、様々な対策を検討・実施のうえ、利用者の確保につなげていただきたい。</p> <p>○新公益法人体系への移行に伴い、評議員制度を導入し、組織体制の見直しを図ったことは評価できる。</p> <p>○獣医師の県職員派遣は、法人の公益性や経営状況等を勘案したうえで見直すべき長期的課題であり、将来的にはノウハウ等を継続したうえで、プロパー化に取り組まれない。</p>
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果(平成26～29年事業総括)	<p>○動物の高齢化や病気・ケガ等を原因とする死亡が相次ぎ、心を痛める県民が多いため、繁殖技術の向上に努めるほか、県の適切な財政関与の下で新しい動物の確保、展示方法の工夫を推進するなど、公立の動物園にふさわしい魅力ある施設整備等に努めること。</p> <p>○正味財産比率がここ数年減少傾向にあることから、経営の基盤を強化すべく、適切な管理運営に必要な経費について県の担当課と協議するとともに、中期経営計画にあるように、SNSツールを活用した広報や営業力の強化など、入園者及び収入の増加に努めること。</p> <p>○県からの獣医師の派遣については、法人の公益性や経営状況を勘案した上で見直すべき課題であることから、将来的にはノウハウ等を継承し、プロパー化するよう引き続き取り組むこと。</p>

6 令和元年から令和4年における2次評価内容

令和元年	<p>①30年度の財務状況は、当期経常増減額が、29年度の-10,856千円から-28,181千円と赤字幅が拡大、一般正味財産も28,181千円減少した。</p> <p>これは、人件費の増加などにより、「動物園管理他に関する事業」の収支が-9,829千円から-27,147千円に大幅に悪化したためであり、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるほか、展示動物の充実や施設の改修といった魅力向上に取り組み、来園者数の増加・サポーターの拡大による収入の確保など、収支の改善を図ること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③ツイッターを活用した魅力発信や、ホームページに複数期分の事業報告を掲載するなど、公開情報の充実に取り組んでいることは評価できる。引き続き、ホームページやSNS、マスコミなどを活用した効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。</p> <p>なお、財務状況に関する情報の公開・提供(ホームページ・パンフレット等)に当たっては、説明責任を果たすためにも、正確で分かりやすい表現に努めるほか、事業ごとの具体的な状況(収支・成果)の記載にも努めること。</p>
------	--

令和2年	<p>①元年度の財務状況は、当期経常増減額が、30年度の-28,181千円から-5,850千円と赤字幅は縮小したものの、4期連続で赤字が続いており、一般正味財産は5,850千円減少した。引き続き、効率的な人員配置・経費の更なる節減に努めるとともに、2年度末にオープンが予定されている、動物園とこどもの城をつなぐジップラインを活用した誘客促進など、こどもの城等の近隣の施設との連携や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたイベント開催等を通じて、来園者数の増加につなげ、収支の改善を図ること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に努めていることは評価できる。今後も効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。</p>
令和3年	<p>①2年度の財務状況は、当期経常増減額が、元年度の-5,850千円から-211千円となり、赤字額は縮小したものの、5期連続で赤字が続いており、一般正味財産は211千円減少した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園等の影響により、入園者数が大きく低下したが、指定管理事業における減収分については、県からの委託料の増額により補填がなされている。当面は、新型コロナウイルス感染症の影響による利用減が想定されるものの、アフターコロナを見据え、動物園とえひめこどもの城をつなぐジップラインや、総合運動公園を含めた3施設からなる「とべもり」エリアの、専用Webサイトによる情報発信をはじめとした相互利用促進策の更なる活用を図りながら、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたイベント開催等を通じて、来園者数の増加を図るとともに、新たなガイド事業などのより収益性の高い事業を実施し、収入の確保に努めること。</p> <p>②獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化の検討を継続すること。</p> <p>③SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に努めていることは評価できる。今後も効果的な情報発信に努め、来園者数の拡大に努めること。</p>
令和4年	

7 県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績

(1) 出資法人の自主性・自立性の向上

○組織体制の見直し、役員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		
取組内容	共通	
	令和元年	
	令和2年	
	令和3年	
	令和4年	

○経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		利用の促進を図り、利用料金の増収とともに、天候などに左右されない安定した収入の確保についても努力する。経費の節減にも努める。
取組内容	共通	積極的なイベント開催やPRによる来園者サービスの向上を図るとともに、経費の節減に努める。
	令和元年	来園者のニーズに応え、研究活動報告会や砥部町の成人式への参画等で、新たな入園者層の呼び込みに努めた。
	令和2年	協会の経営改善には、収益の向上が欠かせないことから、有料ガイド事業など収益事業を拡充して実施できるよう定款変更。(新型コロナの影響により事業化は今後)
	令和3年	職員から広くアイデアを募集し、有料ガイドと商品開発のプロジェクトチームを設置。新たに行った有料ガイドやエサやり体験、商品販売により収益事業収入の増につながった。
	令和4年	

(2) 県の関与の適正化
○財政的関与の見直し

取り組むべき課題		法人の財政基盤の強化
取組内容	共通	適正な指定管理委託料の確保
	令和元年	利用者の増加に努めるとともに、指定管理委託料の確保を図った。
	令和2年	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入園料収入だけでなく収益事業収入が大きく減少した。指定管理委託料の増額があったものの、増額分以上の影響があり、厳しい状況が続いている。
	令和3年	新型コロナウイルスの影響による休園により、入園料収入および収益事業収入が大きく減少している。指定管理委託料の増額を受け、当期収支差額は黒字となったものの依然として厳しい状況が続いている。
	令和4年	

○人的関与の見直し

取り組むべき課題		獣医のプロパー化
取組内容	共通	県と協議しながら現在は県職員である獣医のプロパー化の検討を進める。
	令和元年	引き続き、県と協議しながら検討を進めた。 <small>プロパー職員育成に係る取組</small> 出張や研修により、技術や知識を深めた。
	令和2年	引き続き、県と協議しながら検討を進めた。 <small>プロパー職員育成に係る取組</small> 出張や研修により、技術や知識を深めた。
	令和3年	引き続き、県と協議しながら検討を進めた。 <small>プロパー職員育成に係る取組</small> オンライン会議や研修により、技術や知識を深めた。
	令和4年	<small>プロパー職員育成に係る取組</small>

※プロパー職員育成計画等を作成している場合は添付してください。

○出資法人の活用

取り組むべき課題		近隣の県施設との連携
取組内容	共通	こどもの城や運動公園との連携による集客を図る
	令和元年	引き続き、駐車場の共有化を実施した。
	令和2年	引き続き駐車場の共有化を実施するとともに、とべもりエリア3施設での共同イベントや、ジップラインオープンに伴うガイドイベントを実施した。
	令和3年	引き続き駐車場の共有化を実施した。 とべもりエリア3施設での共同イベントや、ジップライン1周年に伴う商品販売を実施した。
	令和4年	

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3) 法人情報等の積極的な開示等

○法人情報の公開

取り組むべき課題		財務状況に関する正確な情報提供
取組内容	共通	HPに事業ごとの具体的な成果を記載する
	令和元年	HPに事業報告他を記載している。
	令和2年	引き続きHPに事業報告他を記載している。
	令和3年	引き続きHPに事業報告他を記載している。
	令和4年	

○認知度の向上

取り組むべき課題		更なる情報の公開、とべ動物園のPR
取組内容	共通	様々なツールを活用しながらPRに努める。
	令和元年	HP、ツイッター、フェイスブック、ユーチューブを活用し、動物の誕生やイベント情報を周知した。
	令和2年	引き続きSNS等での情報発信を行うとともに、臨時休園中の動物の様子や、感染拡大防止のために中止したイベントを動画で紹介した。
	令和3年	引き続きSNS等での情報発信を行うとともに、臨時休園中の動物の様子や繁殖した仔の成長情報などを写真や動画で紹介した。動物に関するTV番組などへも積極的に参加協力した。
	令和4年	

8 令和4年度評価

(1) 1次評価

法人による評価	<p>令和3年度の年間入園者は356,479人で、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しない計画で掲げた目標50万人には約144千人及ばなかった。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、臨時休園明けなどは平年を大幅に上回る入園者を得た月もあった。</p> <p>収支面においては、県からの追加委託料や、新たに開始したエサやり体験や有料ガイド事業、商品開発などの収益事業拡充により、当期収支差額1,277千円の黒字となった。しかし、例年委託料と入園料収入では必要額をまかなえておらず、不足額を補填するため収益事業の利益を全て充て、なお不足する額については資産を取り崩している。また、令和2年度に取崩すことのできる資産は全て取り崩している。</p> <p>今後も収益事業のさらなる拡充や、フリーディングローンによる動物の搬入や繁殖に取り組む、入園者および収入の確保に努めたい。</p>
法人所管課による評価	<p>令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う計約70日の臨時休園が行われたものの、休園日ガイド・園長独占ガイドの新規開催やオンラインショップの充実といったウィズコロナの動物園のあり方を視野に入れた収益事業を実施し、収支改善に努めた点は評価できる。</p> <p>また、介護老人保健施設や小学校への移動動物園、ふれあいキャラバン隊による小動物とのスキンシップ及び実物教育活動等を通じて県民から愛される施設づくりに取り組んでおり、来園者の更なる満足度の向上を図っている。</p> <p>令和4年度においても、とべもりエリアとしての施設間連携を強化するほか、3年度に実施した新規収益事業のさらなる充実を図ることで安定した収益増加を図り、法人運営の安定化に努めていただきたい。</p>

(2) 2次評価

<p>①3年度の財務状況は、当期経常増減額が、2年度の-211千円から-3,933千円となり、6期連続で赤字決算となり、一般正味財産も3,933千円減少した。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園が行われたが、指定管理事業における減収分については、県からの委託料の増額により補填がなされている。</p> <p>②赤字幅は縮小していないものの、有料ガイド事業や、収益事業の充実により、収支改善に努めている点は評価できる。今後も、ウィズコロナに対応した事業展開の推進と、アフターコロナを見据え、動物園とこどもの城をつなぐジップラインを活用した誘客促進など、とべもりエリアの施設間連携により、来園者数の増加を図るとともに、収益性の高い事業を実施し、収入の確保に努めること。</p> <p>③獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化について、県等と協議をしながら検討を進めること。</p> <p>④SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に取り組んでいることは評価できる。今後も効果的な情報発信により、動物愛護思想の普及及び来園者数の拡大に努めること。</p>
--